

出題分析			
試験時間	75 分	配点	200 点
		大問数	2 題
分量 (昨年比較)	[減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化]
【概評】 〈現代文〉 問題文は 2024 年度よりもやや短かったが、難易度は例年どおり。ただし、やや難度の高い知識を問う設問が 2 問出題された。 〈古文〉 問題文は 2024 年度よりも短かったが、語句や知識問題・内容・理由説明問題など、さまざまな設問が出題されるのは例年どおり。また、頻出の内容合致問題が出題されなかった。			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
一	現代文 (評論) 田崎英明 「言語の起源、 歌の起源」 ○行数：127 行□	人間と動物のコミュニケーションを比較し、人間は現象の背後に意図を想定することを論じた文章。問一～七の漢字・脱文挿入・語句・理由説明・空欄補充問題は標準。問九の軍歌を問う設問は、やや難。選択肢ホの「大君」が“天皇”を意味することに留意する。問十三の内容説明問題は、「サイン」と人間特有の理解の関係を考察している選択肢ニが正解。問十四の内容説明問題は「見えないもの」と「隠された見えるもの」の違いを押さえる。 ※ (昨年度) 評論、145 行、14 問 (14)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準
二	古文 (平安・作り物語) 六条斎院宣旨源頼国女? 『狭衣物語』 ○行数：31 行	狭衣が遭遇した女車に、怪しげな法師が乗っていた話。問一～三の内容説明・語句問題は標準。問四の現代語訳は、「円頭」「僧綱」を踏まえる。問九の内容説明問題は、逃げ出した法師を「尼君」と呼んでいることに着目する。問十一の内容説明問題は「年頃、懸想したまへる人」を踏まえる。問十三の空欄補充問題は、牛飼童の発話文である点を踏まえ、打消意志の助動詞「じ」を選ぶ。 ※ (昨年度) 鎌倉・軍記物語、45 行、13 問 (17)	標準 〈問題文〉 標準 〈設問〉 標準

※「行数」は問題文の行数。関西学院大学の問題文は通常 30 字/行 (19 行/段、2 段/頁)。

※昨年度のデータは、同一日の試験問題にもとづく。

設問構成 (設問数・形式・内容)													
大問 番号	設問数 (枝問総数※)	選択式 枝問数	記述式 枝問数	漢字	内容 説明	理由 説明	全文 把握	空欄 (脱文) 補充	主語 確認	現代 語訳	訓読 訓点	語句 文法 知識	その 他
一	15 問 (15)	15		2	3	1	1	5				2	1*
二	15 問 (20)	20			5			2	1	3		9	

※「枝問総数」は、各設問（小問）に含まれる枝問も個々に数えた場合の全設問（小問・枝問）の総数。設問形式・内容別の設問数も、これと同様の方法で算出した（ただし漢字の読み・書き取りの設問は、枝問に分かれている場合も設問単位で「1 問」と数える）。

※「設問内容」の「>」の後の**太字斜体の数字**は、記述式の枝問数を示す。

※「その他」の「1」は、軍歌を問う問題（問九）。

合格のための学習法

〈現代文〉

硬質な評論の読解に慣れておくこと。各設問では、問題文の正しい理解に加えて、漢字や語句の意味も問われるため、文脈を丁寧に押さえながら読解することを意識するとよいだろう。

〈古文〉

古文知識・正確な読解力のいずれもがバランスよく問われるため、普段の学習においても細かな点までおろそかにせず、丁寧に問題文を読むことを心がけよう。